

文学部生によるキャンパス用語の分析及びその教育的意義と活用

札埜 和男*

Analysis of Campus Slang by Ryukoku University Faculty of Letters Students and Its Educational Significance and Utilization

FUDANO Kazuo

要約：2024年度に、収集したキャンパス用語を本学（龍谷大学）文学部有志学生と政策学部の村田和代教授のゼミ生により各学部の視点から分析、発表し合う実践を行った。本稿の目的は文学部の視点から、そのプロセスや学生による分析結果を紹介するとともに、今回の実践の教育的意義や活用方法をまとめることである。文学部の学生が自分たちのキャンパス用語を分析した今回の教育的意義は3つある。一つ目は大学で学んだ専門知識を実際に試すことができた点である。二つ目は学問のディシプリンを認識できた点である。三つ目は自分たちのアイデンティティや生活世界を見つめ直す契機になった点である。さらに実施したようなキャンパス用語の調査分析は高等学校の現場、とりわけ「総合的な探究の時間」でも取り組めるであろう。またキャンパス用語には学生の等身大の生活や思いが反映されており、そこには学生の「要求」が潜むといえる。学生の願いを汲み取りながら大学を発展させていくヒントがそこには詰まっており、より一層満足度を高めるよすがになることばであるといえる。

キーワード：龍谷大学政策学部・文学部、キャンパス用語、教育的意義と活用

Abstract: In the 2024 academic year, a practical exercise was conducted where collected campus slang terms were analyzed and presented from the perspectives of each faculty by volunteer students from the Faculty of Letters at Ryukoku University and seminar students of Professor Kazuyo Murata from the Faculty of Policy Studies. The purpose of this paper is to introduce the

* 龍谷大学文学部教授

process and the students' analysis results from the Faculty of Letters' perspective, while also summarizing the educational significance and potential applications of this practice. The educational significance of Faculty of Letters students analyzing their own campus slang lies in three points. First, it allowed them to apply the specialized knowledge they acquired at university in a practical setting. Second, it enabled them to recognize academic disciplines. Third, it provided an opportunity to reexamine their own identities and lived experiences. Furthermore, conducting analyses of campus slang, as implemented here, could be undertaken in high school settings, particularly within the “Comprehensive Inquiry Time” framework. Moreover, campus slang reflects students' authentic lives and sentiments, revealing underlying student “demands.” It holds valuable hints for developing universities while reflecting student aspirations, serving as words that further enhance satisfaction with the institution.

Keywords: Ryukoku University Faculty of Policy Studies and Faculty of Letters, Campus Terminology, Educational Significance, and Utilization

1. はじめに（調査研究の契機および本稿の目的・意義）

本調査研究の契機は他の共同研究で縁のある本学政策学部の村田和代教授（以下「村田」と略す）との雑談であった。互いにことばを研究することや以前キャンパス用語について調査研究し、興味関心を抱いていることから、キャンパス用語を収集して学部生の視点から分析させてみたらどうだろうか、という話になった。村田はポライトネスから見た若者ことばの機能についての論文（村田2005）を発表しており、筆者（札埜）は高等学校に勤務していた時から、授業で若者ことばを扱ってきた経緯があった¹⁾。

ちなみに米川（1996 p.13）によると「『キャンパスことば』は一般に大学生がキャンパスで使用する学校に関することば」で、「『学生語』はキャンパスことばよりも広い概念で、キャンパス外でも、また学校に関すること以外についても言うことばである」としている。村田（2005, p.25）では「『キャンパスことば』及び『学生語』の両方に渡る語であるため『龍谷大学キャンパスことば』という名称ではなく『龍谷大学キャンパス語』を使用する」としているが、今回は龍谷大学という特定の学校で用いられることばという意味を持たせるために「キャンパス用語」とする。したがってここで使う「キャンパス用語」とは「龍谷大学の学生がキャンパスで使う学校に関することば及びキャンパス外で学校に関すること以外についてのことば」と定義する。

本稿の目的は文学部の視点から、そのプロセスや文学部学生による分析を紹介するとともに、今回の実践の教育的意義や活用方法についてまとめることである。したがって村田（2005）のようにキャンパス用語自体の調査分析に焦点を当てるのではなく、あくまでも学生によるキャンパス用語の分析の教育的意義やその活用について焦点を当てている。

2. 収集方法および研究プロセス

村田は深草キャンパスにおいて、2024年4月23日3限の政策学部の授業「政策コミュニケーション論」で単語（表現）・意味・例文や説明を受講学生の協力のもとで収集し、村田和代ゼミ2年生（2024年当時。以降「村田ゼミ生」と略す）もgoogle formを使い、追加で収集した。瀬田キャンパスについては、村田ゼミ生が言語生活の調査を行った。6月に数回瀬田キャンパスにて社会言語的なフィールドワークを行い、google formによるアンケート調査も実施した。深草キャンパス・瀬田キャンパスで収集した用語は、村田ゼミ生が、エクセルファイルにデータをまとめて、品詞も付して、整理した。

筆者は2023年「国語科教育法A」の授業で収集したキャンパス用語に加え、2024年5月16日「総合的な学習の時間・特別活動論」の課題として凡そ次のような内容を提示して収集した²⁾。

「HRのスキマ時間」という見立てで龍大生が使うキャンパス用語集コンクールを行います。大宮キャンパス特有のことば、深草の学部の人には深草キャンパス特有のことば、思いつかない場合はいわゆる大学生や若者が使うことばを紹介して下さい（仲間内のことばでも構いません）。

例

ことば	大宮のスタバ
品詞	名詞
意味	大宮学舎東翼にあるジョージアの紙カップ式自販機（挽きたての豆から淹れる本格仕様である）のこと。
用例	空きコマやから、大宮のスタバでなんか買っとこ。

ことば	バさき
品詞	名詞
意味	アルバイト先
用例	バさき、行ってくるわ。

ことば	
品詞	
意味	
用例	

筆者はゼミを担当していないので、キャンパス用語の分析に関心を持つ学生を募った結果、2名が名乗り出た。(申し出順で) 仏教学科の中村美薫さんと日本語日本文学科の柴田瑠羽さん、いずれも当時3回生であった。その後、中村さん・柴田さん(以降「中村・柴田」と略す)が村田ゼミ生の方法に従って収集・整理した。

7月19日5限には村田ゼミの授業に筆者が出向き、キャンパス用語を収集・分析する学問的意義について、文学部教員の立場から言語使用はあるがまま受け止めるべきという見解を説明した。村田によると、政策学部は多様な領域から社会課題の解決を目指す研究・調査を重要視しているので調査・分析結果にとどまらず、それらをベースにした提案をする傾向があるということであった(キャンパス用語から商品化できそうな語とその商品を提案するところが帰着点となるということであった)。そのためなぜキャンパス用語を調査研究するのか、という筆者の説明はゼミ生たちの腑に落ちたようだとのことであった。

今回文学部生が分析できたのは村田ゼミ生の調査の恩恵に預かるところが大きい。村田ゼミ生は深草キャンパスでも瀬田キャンパスでも語の収集のみならず、現地学生への聞き取り調査、各キャンパスで展開する科目名の調査、学部・学科編成の調査、課外活動の活動場所の調査等、言語使用の背景にある調査も行っており、印象による考察ではなく、調査結果に基づく科学的な分析を行った。村田が専門とする社会言語学では、実際の言語使用の背景にある社会的状況をも考察対象とするためである。今回の実践は村田ゼミの学生の尽力なくしては成り立たなかったといえる。

3. 文学部生による分析

2024年10月11日村田ゼミの授業に札埜・中村・柴田が赴き「龍谷大学キャンパス用語分析」と題して、柴田・中村の順に分析結果を紙媒体とパワーポイントで発表した。発表の内容は以下の通りである。可能な限りそのまま引用する³⁾。中村は(1)(2)(3)、柴田は(4)を担い、(5)(6)は2名で擦り合わせてまとめた。



(1) 頭音別の分析 (語数と割合)

まず、「龍谷大学キャンパス用語」の分析にあたって全378語のキャンパス用語を五十音順に集計し、頭音別に分類した。表①・グラフ①は頭音別の語数と割合を示したものである。日本語の語彙は、半数以上が「あ行～さ行」に属する文字から始まる語であるとされている。また、日本語の語彙を頭音別に分けて五十音順に並べると、半数時点で「す」または「せ」から始まる語になるといわれている。

キャンパス用語の総数は378語であり、その中間にあたる189番目の語は「せ」から始まる語にあたる。「龍谷大学キャンパス用語」は「あ行～さ行」から始まる語が半数以上を占めること、半数を超えた時点の頭音は「せ」であることから、「龍谷大学キャンパス用語」は、日本語の語彙全般の分布と共通する点があることがわかった。

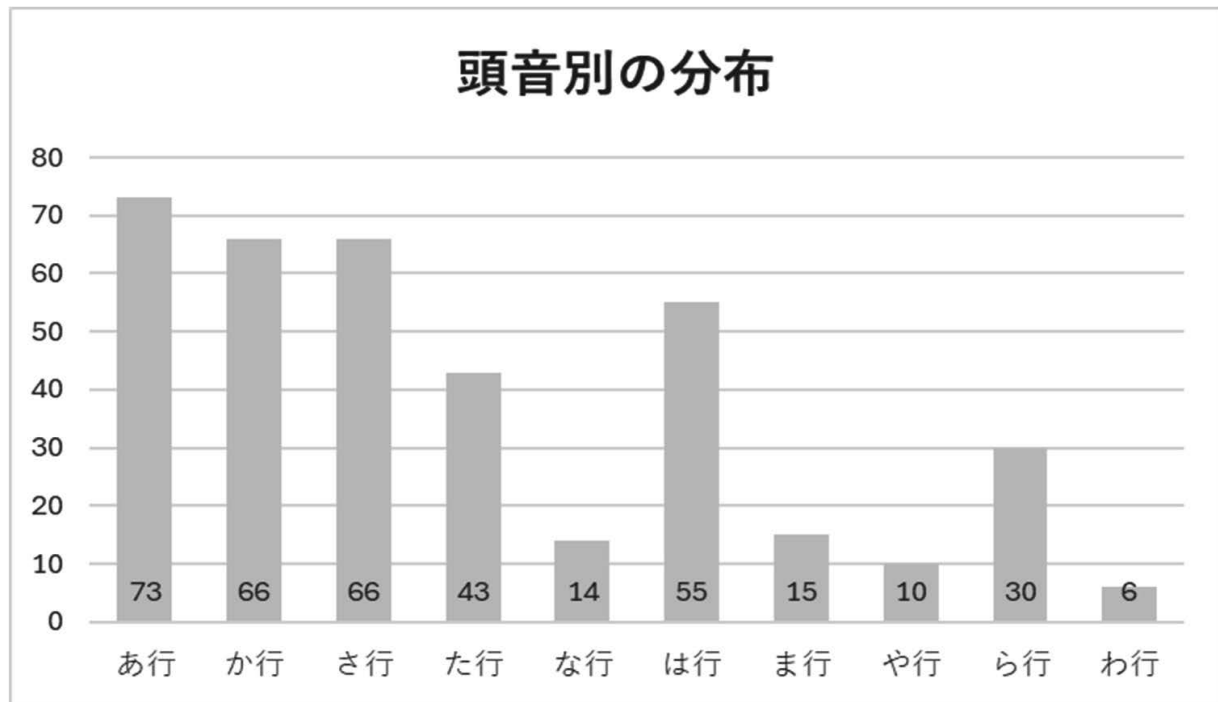
さらに、「お」、「し」から始まる語が最多でそれぞれ25語、次点の「か」が24語であったのに対し、「ぬ」から始まる語は0語と、文字によって偏りが大きいことがわかった。日本語では「し」から始まる言葉が一番多いとされているが、「お」が「し」と並んで最多となったのは、大宮キャンパスに関連する語の数に関係していると考えられる。また、「は行」においても最多であるのは「ふ」を頭音とする語であり、深草キャンパス関連の語が多いと予想される。キャンパスごとの分析やその特徴については、後述する（筆者注：本稿では割愛した）。「し」については学部・学科名や科目の略語が多く、またその略し方も多用であるため、語が多くなったと考えられる。また、globalやcommunicationなど、C（シー）やG（ジー）から始まる英語を略している例が多数見られた。その傾向については(3)にて言及する。

以上、頭音の語数と割合から、「龍谷大学キャンパス用語」はキャンパス用語独自の特性を所有しつつも、日本語の語彙全般の特徴と共通する要素を兼ね備えていることがわかった。

表① 頭音別の語数と割合（小数第三位以下は切り捨て）

頭音	語数	割合	頭音	語数	割合
あ行	73	19.31%	は行	55	14.55%
あ	20	5.29%	は行	15	3.96%
い	15	3.96%	ひ	9	2.38%
う	5	1.32%	ふ	19	5.02%
え	7	1.85%	へ	1	0.26%
お	25	6.61%	ほ	11	2.91%
か行	66	17.46%	ま行	15	3.96%
か	24	6.34%	ま	3	0.79%
き	15	3.96%	み	6	1.58%
く	8	2.11%	む	3	0.79%
け	7	1.85%	め	1	0.26%
こ	12	3.17%	も	2	0.52%
さ行	66	17.46%	や行	10	2.64%
さ	10	2.64%	や	1	0.26%
し	25	6.61%		-	-
す	9	2.38%	ゆ	5	1.32%
せ	14	3.70%		-	-
そ	8	2.11%	よ	4	1.05%
た行	43	11.30%	ら行	30	7.93%
た	14	3.70%	ら	8	2.11%
ち	8	2.11%	り	15	3.96%
つ	2	0.52%	る	1	0.26%
て	9	2.38%	れ	5	1.32%
と	10	2.64%	ろ	1	0.26%
な行	14	3.70%	わ行	6	1.58%
な	1	0.26%	わ	6	1.58%
に	4	0.10%	-	-	-
ぬ	0	-	を	0	-
ね	3	0.79%	-	-	-
の	6	1.58%	ん	0	-
			総数	378	100.00%

グラフ① 頭音別の分布



(2)品詞分類と分析（その特徴）

次に、「龍谷大学キャンパス用語」全378語を、「名詞（代名詞を含む）」、「動詞」、「形容詞」、「副詞」、「感動詞」、「文」に分類した。378語のうち11語は、ひとつの文として用いられる語であったため、今回の分析においてはそれらを「文」として分類した。また、品詞の候補が複数考えられるものについては、用法にしたがって分類を行った。以下に示す表②は、上記に基づいて分類したデータである。

表② 品詞の語数と割合（小数第三位以下は切り捨て）

品詞	語数	割合 ²
名詞(代名詞を含む)	300 語	79.36%
動詞	34 語	8.99%
形容詞	25 語	6.61%
副詞	4 語	1.05%
感動詞	4 語	1.05%
文	11 語	2.91%
合計	378 語	100%

2-1 名詞（代名詞を含む）

「龍谷大学キャンパス用語」において、名詞が約79%と大多数を占めていることが分かった。なかでも施設名、学部学科名、授業名等の固有名詞やその略語が多くみられた。そのため、必然的に龍谷大学らしさが語にあらわれやすくなる。また「仏教」や「仏」等、同じ語であっても複数の意味を有している同音異義語も多数見られる。これらは、ある限られた人間同士（コミュニティ）のみで使用されるキャンパス用語の特性のひとつであると考えられる。

名詞の中には「あきこゼミ」や「くりた」等、教員名に由来する語も複数確認できる。教員名に関わる語はおそらく教員本人の前で使用されるものではなく、学生間で使用されるものである。意味を確認すると、教員名が含まれるキャンパス用語は、単位取得の難易度が関わっている事例が多い。教員と学生をつなぐ「単位」の存在が、教員の印象を左右させていることが伺える。いずれにせよ、学生はある程度の関わりがある教員に対してこのような用語を生成していることがわかる。

2-2 動詞

動詞に関してはサ行変格活用による複合動詞が多数みられ、複合動詞をさらに略した語が多く使用されている。また、「アドる」、「ガバる」等にみられるように、「する」と複合した語はカタカナで表記される傾向があり、外来語の名詞や固有名詞である場合が多い。また、カタカナ表記に関しては、SNSなどのインターネット上で利用される「若者ことば」、「ネット用語」等の影響を多分に受けていると考えられる。近年「アがる」、「バズる」等のことばがSNSなどで使用されていることから、カタカナの語とサ変の複合語に親近感を持つ若者が多くなっている可能性があると考えられる。

2-3 形容詞

形容詞では、キャンパスの特徴を表す語が複数みられた。瀬田キャンパス、大宮キャンパス双方において、それぞれのキャンパスが閑静であるさまを表す用語が使用されている一方、深草で使用される語にはキャンパスそのものに関わる形容詞は見られず、人やものの状態を表すような一般的な用法に限られた。大宮キャンパス、瀬田キャンパス特有の言い回しは、「龍谷大学キャンパス用語」ならではの語であることから、また「かわちい」など、既存の形容詞と同様の意味を持ちつつも、語の一部を意図的に変えて使用する語もあった。

2-4 副詞・感動詞

副詞・感動詞は共に4語であった。両者に共通する特徴としては、既存の語を略して用いている点である。「なるべく早く」を「なるはや」、「とりあえずまあ」を「とりま」といったように、

4～5語に省略する傾向があると考えられる。略語の傾向については、次項で音声的な観点から考察していきたい。

2-5 文

特徴的であるのは、文自体をキャンパス用語として使用している例が多数みられたことである。食事や娯楽に誘うための文句や感謝を伝える際の定型文、さらには形容詞と同様にキャンパスの特徴や様子を表す文章が、「キャンパス用語」として認知されるようになるまで日常的に使用されていることは、「龍谷大学キャンパス用語」の分析において特筆すべき点である。特に誘い文句の文では、「かましにいこや」や「休憩行く？」等にみられるように、大学生になって初めて体験できる酒・タバコ・パチンコなどのギャンブルに関する暗喩表現が用いられている。

酒・タバコ・パチンコに関するキャンパス用語は文以外にも多くみられたが、そのいずれも直接的な表現はされていない。大学生はなぜこれらの娯楽に対して暗喩を用いるのか、以下の観点から理由を考察した。

① 酒・タバコ・パチンコへの背徳感がある。

酒・タバコ・パチンコ（ギャンブル）はいずれも依存性が高く、依存症によるトラブル等を招く可能性があることから、学生間では「悪いもの」とであるというイメージが先行していると考えられる。タバコに関しては世間一般でも禁煙が推奨されており、負のイメージが強調されている。その風潮の中で酒・タバコ・パチンコを楽しんでしまっているという事実が、学生に背徳感を抱かせているのではないかと考察する。そのため「周囲に知られたくない」、「知られてはいけない」という思考を持った学生が、暗喩表現を使うようになった可能性があると考ええる。

② 酒・タバコ・パチンコという語を口にしないことでこなれ感を表現している。

先述した①の説とは逆に、酒・タバコ・パチンコといった行為に好意的な印象を持ち、酒・タバコ・パチンコを楽しむ自身に肯定的な学生も一定数存在していると考えられる。直接的な語を用いなくとも互いに意味を理解し、それらの行為を仲間内で楽しもうとする気持ちのあらわれにも感じられる。

いずれにしても暗喩表現を用いている以上、周囲にわかるような言葉を避け、仲間内だけで通ずるよう工夫された語であることがわかる。使用者である学生本人が酒・タバコ・パチンコ等どのような印象を持っているのか、という点については本レポートで言及できないが、キャンパス用語の生成、使用に際しては世論に強い影響を受けていることが推測できる。

以上の品詞分類と考察から、SNS等の影響を受けていると考えやすいもの、龍谷大学のキャンパス用語ならではのものなど、品詞によって特徴が異なることがわかった。また、キャンパス用

語には暗喩表現が用いられていることもあり、暗喩表現となるか否かは、世論やSNS等の存在が影響している可能性があると考えられる。

(3) 拍と音節の分布と分析

続いて、「龍谷大学キャンパス用語」全378語の拍と音節を分析した。本章では拍と音節の分布を提示し、その結果に基づいて、音声的な観点からキャンパス用語を分析する。分析に先立って「拍（モーラ）」と「音節（シラブル）」について解説する。日本語における音韻のひとまとまりは「拍（モーラ）」である。拍は仮名一文字で表記されるような音のまとまりであり、時間的に等しい長さにする感覚に基づいてまとめられている。対して、「音節（シラブル）」とは発音動作のひとまとまりを基本のひとつとする音のまとまりである（藤田保幸2010『緑の日本語教本』和泉書院、pp.26-27）。

（例）サクラ→3 モーラ 3 シラブル

シンブン→4 モーラ 2 シラブル

ラップ→3 モーラ 2 シラブル

また、「ン」（撥音）、「ッ」（促音）、「ー」（長音）は特殊拍であり、拍数と音節数が異なる。以上に基づいて、「龍谷大学キャンパス用語」の拍と音節を分析した。結果は表③、④の通りである。

表③ 「龍谷大学キャンパス用語」拍数と割合（小数第三位以下は切り捨て）

拍数	語数	割合	拍数	語数	割合
1	3	0.79%	12	-	-
2	18	4.76%	13	2	0.52%
3	75	19.84%	14	1	0.26%
4	129	34.12%	15	-	-
5	39	10.31%	16	-	-
6	38	10.05%	17	-	-
7	29	7.67%	18	1	0.26%
8	19	5.02%	19	-	-
9	13	3.43%	20	-	-
10	5	1.32%	21	-	-
11	5	1.32%	22	1	0.26%

表④ 「龍谷大学キャンパス用語」 音節数と割合 (小数第三位以下は切り捨て)

音節数	語数	割合	音節数	語数	割合
1	4	1.05%	12	3	0.79%
2	43	11.37%	13	1	0.26%
3	125	33.06%	14	-	-
4	76	20.10%	15	-	-
5	37	9.78%	16	-	-
6	40	10.58%	17	1	0.26%
7	22	5.82%	18	-	-
8	14	3.70%	19	-	-
9	5	1.32%	20	-	-
10	3	0.79%	21	-	-
11	3	0.79%	22	1	0.26%

日本語の単語は2～4拍の長さで安定しており、『図説日本語』や栗林（栗林均1996「現代日本語のアクセントの型の分布：『電子ブック版 大辞林』を資料として」『日本大学人文科学研究所紀要』51、pp.1-28）によると、日本語の語彙は4拍語、3拍語、5拍語、6拍語の順に多い。表③に示されるように、「龍谷大学キャンパス用語」も4拍語、3拍語、5拍語、6拍語の順に多い。なかでも4拍語が圧倒的に多く、キャンパス用語使用者は、無意識的に発音しやすい語を選択し、使用していることが推察できる。また、18語、22語は文として収集したキャンパス用語である。

一方、表④を見ると、3音節の語が約33%と多数を占めている。多い順に3音節語、4音節語、2音節語と、拍と音節の実際が異なることがわかる。分析した結果、4拍語の語に特殊拍が含まれていることが多く、3音節、もしくは2音節の発音となることがわかった。最たるものは「○○単」と、単位を表す「単」が含まれる語である。「鬼単（オニタン）」や「落単（ラクタン）」は撥音「ン」が含まれるため、4モーラ、3シラブルの語となる。また、「SB（エスビー）」や「LA（エルエー）」等、アルファベット2語が組み合わせられた語は長音「ー」により、拍数と音節数が異なる。

以上の結果からキャンパス用語の使用者は発音しやすいように語を生成していると考えられる。このことからキャンパス用語は「話しことば」を中心としていると推測できる。

(4)ことばのつくられ方における分析

龍谷大学の深草・大宮・瀬田の3キャンパス用語を分析するにあたって、用語のつくられ方に焦点を当てて分析した。分類方法としては、以下の通りである。①省略されてできた言葉、②同義の言葉との言い換え、③意味の付け足しによってできた言葉、④品詞の変形、⑤比喩、⑥もとある言葉の意味を絞って用いる言葉、⑦固有名詞である。

①省略されてできた言葉

ウッドデッキ（ウドデ、木）、学生交流会館（会館）、神がかっているビジュアル（神ビジュ）、社会学部（しゃか）、TA（ティーチアシスタント）、金曜3限（金3）、和顔館（わけん）など使用する回数が多い、学生生活を送る上で馴染みのあることばである語が多く省略される傾向にある。また、さらにその中で比較的長い単語や外来語、漢字の使用が多いことばである場合は、特に省略されることが多いと考えられる。書き言葉に関しては、スマートフォンのLINEやSNSのDMなど、連絡しやすいように変形されたことばも複数存在すると考えられる。変換時に手間のかかる言葉はカタカナやひらがなに変化していることもある。龍谷大学のキャンパス用語では、大学の特性上仏教用語が由来となることばも多く存在する。一般的に世間での汎用性が高くない語については、スマートフォンの変換に手間がかかるため、省略されている場合も多いと考えられる（和顔館とスマートフォンで変換したい場合、「わけんかん」では変換されにくく、「わ・かお・かん」のように打たなければ変換されにくい）。

②言い換え

アールユニ、現金だけのとこ、言語棟など教室や施設の場所を形容して言い換えた言葉が多い。入学直後などのまだその場所や言葉に慣れていなかった時代に特徴を捉え、形容して言い換えた表現を用いており、そのまま使い続けている例もあるのではないかと考えられる。

③意味の付け足しによってできたことば

「〇〇の～～」のかたちでもとある言葉を形容したり、イメージの付け足しをする。大宮の〇〇という用法が多く用いられている。大宮キャンパスは3、4回生の文学部生が通うキャンパスであるが、1、2回生で通っていた深草キャンパスと比較したり、小規模キャンパスであることや重要文化財である特異性に着目したりした結果付け足された形容が多い。

④品詞の変形

コピーする（コピる）、ゼミに行く（ゼミる）、白ごはんとおクラ菓ごもりを食べる（すごもる）など文や複合語を省略する際に品詞が変化していると考えられる。省略させる理由は①と同様に、

学生生活において使用する頻度が高く、比較的長い単語が多く省略されている。さらに、品詞の変形においては、外来語を動詞化、もしくは形容詞化した用法が多く見られる。また、固有名詞を変形させた用法も見られる。日本語と外国語では音節の取り方が異なるため、音の響き、会話のリズムを保つために動詞化・形容詞化がされるのではないかと考えられる。

⑤ 比喩

スポーツやゲームなど、または会社や社会で使われる言葉にたとえられている。日常生活や大学以前によく使用されていたであろう言葉、アルバイトや就職活動等で触れる機会の多い言葉にたとえられる場合が多いということから、大学生活の中で触れる言葉を、自身の生活の中のさらに馴染みのある表現にたとえて使用されているのではないかと考えられる。

⑥ もとある言葉を意味を絞って用いる言葉

酒を飲みに行くこと（いく）、パチスロを打つことを誘う（打ちに行く？）など、酒・パチンコ・タバコに関する言葉を省略して表現されている用例が多い。人によっては マイナスな行為であると捉えられるものに関して、同じ価値観を持った人同士で暗に示して使用するために省かれる場合が多いのではないかと考えられる。

⑦ 固有名詞

多くの学生の印象に残りやすい教員や学生に関して、一般化されることがあると考えられる。暗に示すために省略・比喩で表現されている場合もある。学生の固有名詞に関しては、外見に関係する特徴（かわいい、服装が特徴的など）で注目されることが多く、教員に関しては単位の取りやすさ・授業の厳しさ・親しみやすさ等の内面に関係する特徴で注目されることが多いと考えられる。また、キャンパス内やキャンパス周辺にある店名がキャンパス用語として使用される場合もある。飲食店やパチンコ店など、友人同士でよく訪れるため店名だけで場所や意図が伝わる場合に使用されることが考えられる。

(5) キャンパス用語が生まれる理由

話のテンポや語感を良くするため（話しことば）略語が多くを占めるキャンパス用語を使用することで、話のテンポが速くなり集団の中で会話をする際などに盛り上がりやすいのではないかと考えられる。また、外来語が由来である用語が多く見られることから、外国語との音節の捉え方の違いを無意識的に感じ、会話の中で発しやすく語感の良い用語に変化させた可能性がある。

SNS等で簡潔に楽に伝えるため（書きことば）場所や行動に関するキャンパス用語、特に略語やひらがなに直された用語に関しては、SNSで連絡を取って待ち合わせをしたり状況を伝えた

りする際に円滑に伝達できるよう、変化したのではないかと考えられる。

ユーモアを含む・ポジティブな表現をするため単純な表現や会話・文面で使用した際にマイナスな表現であると捉えられる可能性のある表現について、自虐めいたユーモアを含んだりポジティブな表現に意味を裏返した言葉を変換させることで、会話におもしろさが生まれたり誤解されることを防いだりすることができると考えられる。

集団の中で馴染みのあるものに対して一般化し、仲間意識を持つためある一定の集団（学科内やサークル内など）において、馴染みのあるものを一般化して使用することで、全てを伝えなくても意図が伝わることに仲間意識を感じるのではないかと考えられる。

(6)龍谷大学キャンパス用語に対する考察

上記のキャンパス用語が生まれる理由の考察に加え、今回分析した用語では龍谷大学に限って使用される、もしくは特定のキャンパスに限って使用される用語も存在した。キャンパスに関わらず、龍谷大学に通う学生は、行事で仏教に触れたり「仏教の思想」の授業を1回生時に履修していたりするため、仏教用語に通じたキャンパス用語が多く見られた。その用語数より、仏教が多くくの学生にとって馴染み・親しみのある存在であることがわかるが、その一方で一般的には社会で使われる語であることも確かである。そのため、仏教用語を用いられる表現・固有名詞は、書き言葉としSNS等で使われる場合には省略・変換されている場合が多いのではないかと考えられる。

深草キャンパスでは施設名、飲食店、固有名詞の用語が多い。特に人名に関する用語は深草キャンパスで収集されたものがほとんどであり、学生数の多い深草キャンパスの特徴がうかがえる。

大宮キャンパスでは仏教を中心に学ぶ学生も多いため、仏教用語が用いられることが特に多い。また、閑静で趣のある立地や環境を表す語が多く見られた。

瀬田キャンパスでは大宮キャンパスと同様に閑静な立地に関して触れた語が多かった。しかし、瀬田の学生は4年間を同じキャンパスで過ごすため、他キャンパスと比較するような表現は見られなかった。バスに関する用語も多いことから、バス通学の学生が多いことがうかがえる。

大宮・瀬田キャンパスでは、学生たちが自分の通うキャンパスを卑下するような意味の用語が多く見られたが、対して深草キャンパスではそのような用語が見られなかった。大宮キャンパスでは特に多く見られたが、これは1、2回生で通っていた深草キャンパスの規模の大きさと比較されるためであると考えられる。しかし、卑下の感じられる用語に関してもネガティブな表現をされている語は少なく、多くが仏教用語や古典単語が用いられるなどのユーモアを含む言葉で

あった。また、同時に「歴史と共に学ぶ大宮キャンパス」や「大宮の図書館はレベチ」など、キャンパスを誇りに感じているであろう用語も見られた。

以上ここまでが、文学部学生による分析の結果である。

4. キャンパス用語を学生が分析する教育的意義

文学部の学生が自分たちのキャンパス用語を分析した今回の教育的意義はどこにあるのだろうか。主に3つあると考えられる。

第一は大学で学んだ専門知識を実際に試すことができた点である。今回の分析にあたっては、頭音や拍と音節の視点から分析したり、専門科目で教示された文献を活用するなど大学での専門科目の学習成果が随所に見られた。とりわけ仏教学科に学ぶ中村は自身の専門外である、国語科教員免許取得のための必修科目での学びを「実際に調査研究に応用することができ非常に楽しかった。話しことばをこんなふうに解釈できるのは面白かった。今後は打ちことばとの比較を自分で調べてみたい」と振り返っている⁴⁾。

第二は学問のディシプリンを認識できた点である。今回は学部ごとにアプローチしていくという実践であった。その結果については調査対象を同じくしても学部によって全く異なるまとめに着地することとなった。同じキャンパス用語を分析しても政策学部は「ことば」を通して「提案」という形になっている。村田によると、社会言語学のゼミなので、実際に使われている「言語使用」と（外的要因である）「社会」との関係性をとらえることを志向しており、加えて「言語使用」や「コミュニケーション」から「社会課題」にアプローチすることを目指しているという。この時に発表したのは、ゼミが始まったばかりの2回生だったので、どうしても政策学部の学びの中心になる「課題解決」的アプローチになったという。学生の提案の趣旨は、龍谷大学の学生の龍大愛の形成（龍大のメンバーであるというメンバーシップ・アイデンティティの構築）に役立つように商品開発したということであった。それに比して文学部はあくまでも「ことば」を通して「人間」を見ていく結論であった。「学問領域を超えた多角的な視点から課題を考える『課題解決型』の学びを重視している」政策学部のディシプリン⁵⁾に触れることで、自らの属する学問分野のディシプリンに触れることができたように思われる。

第三は自分たちのアイデンティティを考える契機になったことである。同じ大学の同じキャンパスの同世代がどんなことばをどう使っているかについて知ることは発見に満ちていたようで、例えば中村は調査分析していく中で、学舎間の運行バスの呼び方にしても「ユニバ」、「アトラク

ションバス」、「最終脱出便」、「深バス」などという呼称があることを初めて知ったという。自身を取り巻く同世代のことばから自分（たち）の生活世界が普段とは違って見える機会になったといえるだろう。

また今回実施したキャンパス用語の分析は、探究活動が活発に行われている高等学校の現場でも参考になると思われる。国語科の「現代の国語」・「言語文化」・「論理国語」・「国語表現」などの科目はもちろんのこと、とりわけ「総合的な探究の時間」で同様のことを実施するにあたって参考に資するところが大きいであろう。クラス全員となると興味や関心が一様ではないので難しい面があるが、「総合的な探究の時間」では「協働的な学び」が求められるので、ことばに関心を持つグループを形成し参考文献をもとに調べ、大学（教員・学生）との連携により、分析方法や研究手順を学んで取り組むことが十分可能である（「卒業論文」という形で個人に取り組ませる学校もある）。政策学部で行ったように、調査結果を提言という形でまとめるグループも同時に形成することで、高校生であっても学問ごとのディシプリンの違いを感じることができるかもしれない。基礎的な学問的手法の習得のみならず、大学生で見られた教育的意義が高校生段階でも見い出せるであろう。

5. おわりに

キャンパス用語にはありのままの学生の生活や思いがことばに反映されている。したがって中には学校関係者にとっては、校外には知られたいくないことばも含まれる。例えば酒やタバコなどに見る隠喩表現などもその類であろう。だからといって（自己規制を含めて）ことばを規制することは不自然な話であり、ことばの使用はあるがままだに受け止めるべきであり、そうでないと、ことばの研究など成立し得ない。

高校でのキャンパス用語辞典づくりの先駆的实践者である藤本は『辞書づくり』は高校生の肉声をひき出すことには一定成功したが、彼らの視線は自分の身近なものの表面にとどまっている。生活実感をとらえる、ふだんの思いを表現するという水準には達したが、（中略）社会性や自己省察を含むほんとうの意味での批評性をいまだ持ちえていない」と当初の実践を批判的に振り返っている（藤本1988 p.33）。藤本の「社会性・批評性」ということばに即してキャンパス用語を見るならば、キャンパス用語にある批判的な、あるいは批評的な意味を包含することばを通して、学生の「要求」が反映されるといえる。換言すれば、自分たちの要望をことばを通して可「聴」化しているということである。キャンパス用語には、（正式には明文化されていない）学生の「こうしてほしい」、「こうあってほしい」という意識が潜在している（このことは調査分析し

た学生自身、気づいていない点であった)。たとえば大宮のキャンパス用語には「ホワイト生協」ということばがある。これは「生協の始まる時間が深草より遅く、終わる時間が深草より早い」という意味で「生協、ホワイトやし、閉まってるわ」というふうに使うという。職場環境の悪さを「ブラック」と形容することをもじったことばであろうが、ここには「生協の営業時間をもっと延長してほしい」という要望が潜んでいるといえる。前述のバスに関係する用語の「最終脱出便」は「18時40分、大宮から深草へ移動するバス。これに乗れない場合、大宮から深草まで時間をかけて帰宅する羽目になる。5限終わりの場合はギリギリ乗れるが、6限終わりの場合は問答無用でoutである」という意味である。ここからは「バス最終便をもっと遅くしてほしい」という思いが見て取れる。また大宮キャンパス東麓にある紙カップ式の、挽きたての豆から淹れる本格仕様の自動販売機は「大宮のスタバ」と呼ばれる。これも深草キャンパスには「スターバックス」があることへの羨ましさや渴望から生まれた用語であろう（ただ大宮キャンパスには2025年に前田珈琲ができたので、もしかしたらこのことばはいずれ無くなるかもしれない）。

このようにキャンパス用語は学校関係者からすれば触れてほしくないマイナス部分が含まれているが、それらを忌避するのではなく、そのことばの背後にある学生の願いを直視する必要があるだろう。例えば2023年からの施行設置を経て、2024年度から本設置されたウォーターサーバーを、大宮のキャンパス用語で「阿弥陀の涙」と呼ぶ。ユーモアが感じられる呼称であるが、「阿弥陀」とつけるくらいであるから学生にとっては有難い水なのである。学生が望んでいた環境を大学側が整えた結果、生まれたキャンパス用語であると考えられる。

キャンパス用語には隠れた要求が存在するゆえ、大学を学生にとってより快適な生活空間にする「宝のヒント」が詰まっているといえる。キャンパス用語は学生の思いを汲み取り、学生の満足度をより一層高める大学にしていくよすがとなる「ことば」であるといえるだろう。

註

- 1) 高等学校教員として赴任した3校で、それぞれのキャンパス用語集を作成する実践を行ってきた。関西弁に特化したキャンパス用語集も作った。
- 2) 次のような回答もあった。「この用語を一気に使うと、以下ようになります。『左遷されてから2か月たつけど、だいぶ大宮にも馴染んできたなあ。神ビジュで登校しようと思ったら家出るのギリギリになって、しかもサイレント遅延のせいで結局課金したけど…まあしゃあないか。せっかくやし、電車の中でSUPER課題festivalでも開催しようかな。こんなんでもひいひい言ったらラスボスに立ち向かえへんしな。そういえば、龍谷ミュージアムいかなあ

かん課題なんて仏教以来やなあ、今度深草に帰還した時に、深草図書館の展示も見てみようかな』」。

- 3) 紙媒体やパワーポイントの資料で重なる点などは省いた。資料中の注については本稿との混乱を避けるため文章中に入れ込んだ。本稿では「ことば」という表記に統一しているが、学生の発表資料にある「言葉」という表記はそのまま掲載している。
- 4) 1月6日16時～16時45分、大宮キャンパスにてインタビューを実施した。
- 5) 「学問領域…している」は2026年1月15日付村田からのメールより引用した。2025年4月発行の政策学部「2026年度案内パンフレット」p.2には次のように記されている。「現代社会には、さまざまな要素が複雑に関係しているたくさんの課題があります。それらを解決するためには、幅広い専門性と知識、そして解決するための実践的な力をもつ人材が必要です。政策学部では、理論と実践のカリキュラムで、社会の課題を発見し解決に向けて自立的に取り組む市民性を身につけた人材を育てます。」

謝辞

文学部の中村美薫さん（仏教学科4回生）、柴田瑠羽さん（日本語日本文学科4回生）には分析成果の提供を始め大変お世話になりました。村田和代教授（政策学部）、並びに調査研究に汗を流して下さった村田ゼミ2回生（2024年度）の皆さん（古川太一さん、臼井琉真さん、吉田ひなたさん、東口歩生さん、豊田祐海さん、山本麻友さん、田島優芽さん、河合諒芽さん、大久保明香さん、片岡純輝さん、林田永愛さん、植木佑衣さん、来馬太陽さん、後藤光陽さん、長谷川歩翔さん）に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 藤本英二（1988）『ことばさがしの旅—国語表現の試み〈上〉』 高校出版
- 村田和代（2005）「ポライトネスから見る若者ことばの機能—龍谷大学キャンパス語の分析して—」
龍谷大学国際センター『龍谷大学国際センター研究年報』第14号 pp.25-37.
- 米川明彦（1996）『現代若者ことば考』 丸善出版

参考資料① 中村・柴田がパワーポイント資料として使用した図表

表①

頭音別の語数と割合

「お」と「し」が
最多で25語

「ぬ」は0語

頭音	語数	割合	頭音	語数	割合
あ行	73	19.31%	は行	55	14.55%
あ	20	5.29%	は	15	3.96%
い	15	3.96%	ひ	9	2.38%
う	5	1.32%	ふ	19	5.02%
え	7	1.85%	へ	1	0.26%
お	25	6.61%	ほ	11	2.91%
か行	66	17.46%	ま行	15	3.96%
か	24	6.34%	ま	3	0.79%
き	15	3.96%	み	6	1.58%
く	8	2.11%	む	3	0.79%
け	7	1.85%	め	1	0.26%
こ	12	3.17%	も	2	0.52%
さ行	66	17.46%	や行	10	2.64%
さ	10	2.64%	や	1	0.26%
し	25	6.61%	ゆ	-	-
す	9	2.38%	ゆ	5	1.32%
せ	14	3.70%	よ	-	-
そ	8	2.11%	よ	4	1.05%
た行	43	11.30%	ら行	30	7.93%
た	14	3.70%	ら	8	2.11%
ち	8	2.11%	り	15	3.96%
つ	2	0.52%	る	1	0.26%
て	9	2.38%	れ	5	1.32%
と	10	2.64%	ろ	1	0.26%
な行	14	3.70%	わ行	6	1.58%
ぬ	1	0.26%	わ	6	1.58%
に	4	0.10%	-	-	-
ぬ	0	-	を	0	-
ね	3	0.79%	-	-	-
の	6	1.58%	ん	0	-
			総数	378	100.00%

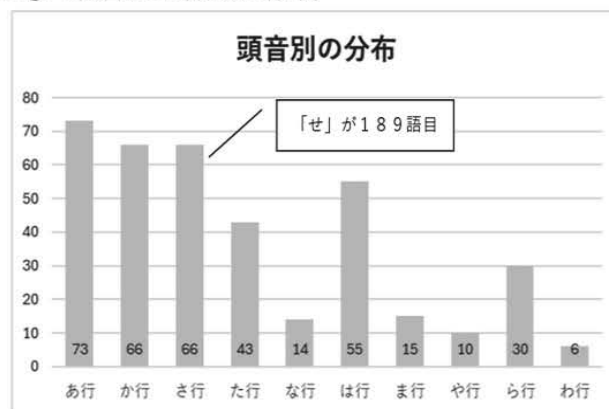
表③ 拍数別の語数と割合

拍数	語数	割合	拍数	語数	割合
1	3	0.79%	12	-	-
2	18	4.76%	13	2	0.52%
3	75	19.84%	14	1	0.26%
4	129	34.12%	15	-	-
5	39	10.31%	16	-	-
6	38	10.05%	17	-	-
7	29	7.67%	18	1	0.26%
8	19	5.02%	19	-	-
9	13	3.43%	20	-	-
10	5	1.32%	21	-	-
11	5	1.32%	22	1	0.26%

表④ 音節別の語数と割合

音節数	語数	割合	音節数	語数	割合
1	4	1.05%	12	3	0.79%
2	43	11.37%	13	1	0.26%
3	125	33.06%	14	-	-
4	76	20.10%	15	-	-
5	37	9.78%	16	-	-
6	40	10.58%	17	1	0.26%
7	22	5.82%	18	-	-
8	14	3.70%	19	-	-
9	5	1.32%	20	-	-
10	3	0.79%	21	-	-
11	3	0.79%	22	1	0.26%

グラフ① 頭音別の語数と割合



参考資料② 大宮でのキャンパス用語（一部抜粋・順不同）

※「ことば・品詞・意味」全て学生が記載した通りである。

ことば	大宮のプリクラ
品詞	名詞
意味	大宮にある証明写真機のこと。

ことば	ドラゴン桜
品詞	名詞
意味	本館の前にある桜のこと。「龍」谷大学だからドラゴン。

ことば	歴史と共に学が大宮キャンパス
品詞	名詞
意味	歴史深い擬洋風建築と共に学ぶことができ、尚且つ人が少なく、落ち着いて勉学に励むことができる意味。

ことば	京都の大宮
品詞	名詞
意味	実習先や府外の人に学校の位置を説明する際に、「大宮」と言うと埼玉？と聞かれるため「京都の」大宮と説明することがある。
用例	「埼玉県ですか？」「いえ、京都の大宮です」

ことば	レスポンス勝負
品詞	名詞
意味	出席確認のために行われるレスポンスを提出する速さを勝負すること。ちなみにパソコンやプロジェクターに一気に映し出す先生より、一文字ずつ口頭で伝える or 一文字ずつ黒板に書いてくれる先生の方が一位を狙いやすい。
用例	「ちょ、レスポンス勝負しよや」「ええで」

ことば	勝者
-----	----

品詞	名詞
意味	レスポで一番に提出した人のこと。一番に提出した人の画面には、女の子が登場し、提出一番を喜んでくれる。

ことば	アトラクションバス
品詞	名詞
意味	深草～大宮間を運行しているボロめのバス。運転手さん曰くブレーキが効きづらいものもあるようで、時差であまりにも急なブレーキがかかるため、揺れが強いのも含めてアトラクションのような気分が味わえる。
用例	「うわ～今日アトラクションバスやん！」「まじか～お疲れ、でも楽しいかもよ？」

ことば	深バス
品詞	名詞
意味	スクールバスのこと。(クラブ所属の人が使うことが多い)
用例	「次の深バス、何時発？」

ことば	チャージスポット
品詞	名詞
意味	卒煙支援ブース(コンビニなどにあるスマホの充電機がレンタルできる「チャージスポット」と、タバコで体にニコチンをチャージすることを掛けて)のこと。

ことば	帰還
品詞	名詞
意味	深草キャンパスに移動すること。1,2 年という大学生の前半を過ごした深草キャンパスは、紛れもない故郷である。また、サークル等の拠点は深草キャンパスであることも多く、その活動のために「帰ってくる」という表現がされたことから派生して、帰還という言葉が使用されるようになったと考えられる。
用例	「深草に帰還。今から向かいます」

ことば	左遷
品詞	名詞
意味	3 年次からメインキャンパスが大宮キャンパスになること。大宮キャンパスの趣ある空間は心を落ち着かせてくれるが、如何せん利便性に欠けることが由来となった。なお、この言葉を使用する際は多少なりとも文学部生としての誇りと優越感がある。
用例	「私ら来年から左遷やねんな」

ことば	テラス
品詞	名詞
意味	本館前のパラソル付きの席。
用例	「2 限終わりテラスで飯食お！」

ことば	歴史の館
品詞	名詞
意味	大宮学舎の旧守衛所のことである。中には、龍谷大学限定グッツや龍谷大学の歴史を語ってくれる機械がある。ちなみに龍谷大学の歴史を語ってくれる機械のスイッチを押して、聞いている人は見たことがない。一度試しにスイッチを押したことがあるがなんととも言えない少し不気味な音楽からはじまり、そこからお姉さんが5分程度龍谷大学の歴史を語るというものだった。旧守衛所は古い建物であるからか、もしくは狭く、少し暗いからか龍谷大学の歴史を語ってくれる機械のスイッチを押すとなんととも言えない雰囲気包まれることが出来る。
用例	「今どこおるん？」「歴史の館の前で待っとくわ」

ことば	観光客
品詞	名詞
意味	特に西本願寺または重要文化財である大宮キャンパスそのものを見に来た観光客のこと。たまに門の前で西本願寺にたどり着けなくて困っている。

ことば	大宮のコストコ
品詞	名詞
意味	大宮清和館の生協コンビニのこと。物資が少ない大宮においてなんでもそろるのが生協コンビニであるから。
用例	とりあえず大宮のコストコ行こ？

ことば	佐藤健の玉座
品詞	名詞
意味	大宮キャンパスに存在する佐藤健が映画撮影の際に使った椅子。

ことば	東(ひがし)
品詞	名詞
意味	東覺のこと(覺が読めなかったから東と言っていた)。東覺の感じが難しく変換で出てこないため LINE など連絡をとる際東覺のことをひがしとひらがなで送る。

ことば	新しくて、きれいなとこ
品詞	名詞
意味	東覺。大宮に通い始めの三回生が東覺を説明するときに用いる言葉。
用例	「次の授業どこ？」「あの新しくてきれいなとこの二階」

ことば	大宮の図書館
品詞	形容詞
意味	空調(室温)がおかしい様。暑すぎる、または寒すぎる状態。
用例	「この教室、大宮の図書館ってね？」

ことば	大宮の図書館はレベチ
品詞	形容詞
意味	大宮の図書館で必要な本は揃うこと。

ことば	二階か外
品詞	名詞
意味	清和館の二階のフリースペースで食事をとるか、敷地内の砂利のスペースのベンチで食事をとるかを簡略化して言った言葉。

ことば	SUPER 課題 festival
品詞	名詞
意味	溜まりに溜まった課題に取り組むこと。「超課題祭」・「SUPER 課題祭」等、様々な表記が存在する。
用例	「図書館にて SUPER 課題 festival 開催！」

ことば	ラスボス
品詞	名詞
意味	卒業論文のこと。四年間の集大成として文学部生が四苦八苦して取り組む卒業論文は、大学生活というゲームの中に、ラスボスとして君臨している。
用例	「ラスボスは 2 万字やからな、それに比べれば 2000 字なん楽勝やわ」

ことば	親鸞の(御)加護
品詞	名詞
意味	様々な災害や厄災が近くで起こっても龍谷大学及びその周辺地域だけは無事になるという結界のこと。
用例	「今日警報出てるけど授業あるのかな？」「親鸞の加護があるからきっと授業はあるよ」

ことば	仏教界の東大
品詞	名詞
意味	我々のアドバンテージ、誇りを表す。仏教系の大学のなかで最高峰を自負する龍谷大学のこと。龍谷大学は仏教関係の大学の中で一番賢いと考えられるから。ちなみに佛教大学と大谷大学で仏教界の京大を争っているらしい。

ことば	仏教デー
品詞	名詞
意味	降誕会や報恩講の仏教関連のイベントで休講になる日のこと。5 限以降休講など全日休講でないときはプチ仏教デーともいう。
用例	「今度の火曜日仏教デーやからどっか行こか」

ことば	大宮に染まってきた
品詞	動詞
意味	新 3 回生が初めのころは深草にいたころのように騒がしいが、だんだんと大宮の雰囲気になれ、静かになっていくこと

ことば	絶起
品詞	名詞
意味	絶望的な起床(寝坊)。遅刻の言い訳に使われる。
用例	「絶起してしまって、1 限の講義に間に合わなかった」

ことば	耐え
品詞	名詞
意味	ギリギリ単位取得した時に使う。親に単位の状況を聞かれた時にとりあえず言っておくと上手くやってる印象を与えられる。
用例	「(授業名)は耐えやったわ」

ことば	徳
品詞	名詞
意味	教授からみた単位
用例	「あの教授は徳を積んでいる(あの教授は単位をくれる)」

ことば	有給
品詞	名詞

意味	授業は3分の2以上は出席しないと単位が認められないことを逆にとり、3分の1は休むことができると捉えたことば。
----	--

ことば	課金
品詞	名詞
意味	遅刻しそうな時に、特急やプレミアムカー等、普段は使わない交通手段を用いること。通常の交通費に加えて、乗車料金を支払わなければならない場合が多いため、「課金」と表現する。
用例	「今日も今日とて特急に課金した」

ことば	サイレント遅延
品詞	名詞
意味	公共交通機関において、数分間の遅延が発生すること。また、遅延情報には表示されず、利用者にしか分からない遅延が発生すること
用例	「サイレント遅延で乗り換え無理やった。遅刻かもしれへんわ」

ことば	飛ぶ
品詞	動詞
意味	授業を休むこと。良くないことは当然であるが、さぼるときにも使われるようである。

ことば	御籠もりする
品詞	動詞
意味	研究などのために、長時間研究室や図書館にこもること。
用例	「発表準備のために図書館に御籠もりする」